

ヤさんと話をするときは、できるだけ絵や写真を使うように心がけるようになったイイ先生。ヤさんも持ち物への理解がずいぶんと深まりました。もうすぐ、ヤさんの子どもにとって初めての遠足があり、イイ先生はいつものように説明を始めました。



ヤさん、次の金曜日は、遠足があります。
(イラストを見せながら) お弁当、水筒、スプーンとフォーク、
敷物を持ってきてください。この遠足の手紙も読んでください。

イイ先生、ありがとうございます。
遠足のとき、おべんと、すとー、ふおく、すぷーん、
しくもの、いりますね。わかりました。

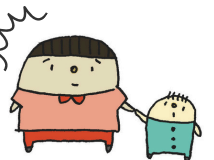


～遠足当日のお迎えで～



ヤさん、今日の遠足、お弁当箱の中身、空やったんですけど・・・
どないしたんですか。ほんて、水筒にオレンジジュース入ってたん
ですわ。ジュースはあかんのですよ。ジュースは、だめです。
次からジュース入れんといってもらえますか。

えっ、そうですか!? イラストと同じなお弁当の箱、
買って持って行きました。ごはんも必要でしたか?
私の国では、ジュース持って行くのはふつうです。日本
ではジュース、どうしてだめですか。



遠足で思わぬ事態に遭遇したイイ先生、びっくりして、お迎えに来たヤさんに慌てた様子で伝えています。イイ先生とヤさんの考え方の間に、大きな違いがあるようです。

Step① ④の内容をどうやったらわかりやすく伝えられるか、考えてみよう!

Step② あなたがイイ先生だったら、この他にどんなやさしさをプラスしますか？

Step③ やさしさを広げるために、学校園や地域でどんなことができそうですか？

やさしにちこぼれ話

水筒の中身がジュースや炭酸飲料だった、お弁当箱の中身が空っぽだった、お弁当として持ってきたものが、お菓子と果物だけだった…。実はこれ、子育て中の外国人家庭の“あるある”なんです。子どもにはジュースや甘いミルクティーを持たせますなんて国も多く、そもそも、お弁当を持たせる習慣のない国や地域もたくさんあります。お弁当が必要と言われて何を作ったらいいのかわからず困った、という話もよく聞きます。

日本の学校園での持ち物や服装などに関するルールや校則は日本特有であるものが多く、それぞれの国や地域によって習慣や“あたりまえ”は大きく異なることがあります。その際「これは決まりだからダメなんです」と一方的に伝えてしまうと、外国人保護者や子どもたちにとっては、自分の大切な文化や習慣を否定されたと感じてしまうことにつながりかねません。

学校園の決まりを伝えて理解してもらうことも大切ですが、わたしたち自身も一度立ち止まって、「このルールでは、これはなぜこうだと決まっているんだろう」「この決まりにどんな意味はあるのかな」「このルール、実は見直してもいいのでは」と“あたりまえ”を学びほぐして、新しい価値を創造していくことも重要なのではないのでしょうか。